

1 職業指導からキャリア教育への変遷

職業指導 Parsons (1908) の職業選択支援運動が起源。日本では 1927 年に文部省通達, 1947 年の教育基本法で学校教育に導入。

進路指導 1958 年に「職業指導」から名称変更。就職希望者のみでなく, 全生徒の成長・発達を意識した支援へ転換。1961 年に文部省が「教師が組織的, 継続的に援助する過程」と定義。**キャリア教育の部分集合**である。

キャリア教育 1999 年の中央教育審議会答申で初登場。小学校段階から発達段階に応じた実施が提言され, 2017 年の学習指導要領で明記。

2 キャリア教育の定義と目的

中央教育審議会 (2011) の定義 「一人一人の社会的・職業的自立に向け, 必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して, キャリア発達を促す教育」

表1 3つの意義

学校教育構成の理念と方向性の提示	各学校段階での発達課題の明確化	学校生活と社会生活・職業生活の連結による学習意欲の喚起
------------------	-----------------	-----------------------------

3 基礎的・汎用的能力 (4つの柱)

表2 基礎的・汎用的能力 (4つの柱)

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
多様な他者理解, 協力・協働, 社会参画	肯定的自己理解, 主体的行動, 自己管理	課題発見・分析, 計画立案, 問題解決	「働くこと」の意義理解, 主体的キャリア形成

※これら4つの能力は相互に関連・依存し, 特定の順序や均一な習得を求めるものではない。

4 キャリア教育の実践

表3 進路指導の6つの活動 (文部省, 1995)

生徒理解と自己理解	進路情報の提供	啓発的経験の提供
進路相談	就職・進学指導	卒業生の追指導

4.1 特別活動との連携

特別活動を「要」としつつ各教科等でキャリア教育を実施。「勤労生産・奉仕的行事」は体験的キャリア教育の重要機会。キャリア・パスポートを活用し、児童生徒の自己理解と将来設計を支援。

5 評価と連携

表4 3つの評価対象

生徒の学習状況	教師の学習指導	学校の指導計画
---------	---------	---------

評価方法 観察, 制作物, キャリア・パスポート, 自己評価, 相互評価, 他者評価など。

連携の重要性 外部連携（地域・社会との接続）と学校間連携（発達段階に応じた継続的支援）が不可欠。

6 PDCA サイクルの活用

表5 藤田（2014）が示す7つの重要ポイント

行動レベルでの現状把握と目標設定	教職員・保護者・地域の納得できる目標	基礎的・汎用的能力の活用
評価指標の設定と成果評価	包括的評価の工夫	教科評価との区別
評価結果に基づく改善		

A（改善）の重要性 評価を踏まえた目標の再検討が特に重要。キャリア教育は継続的・体系的な実践が求められる。

1. 中学生時代の職場体験や職業調べにおいて、「このような仕事が存在するのか」と驚いた職業はありましたか。
2. 「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つのうち、自身が最も得意または苦手とする能力はどれですか。
3. 仮に自身が中学校教員として「勤労生産・奉仕的行事」を企画する場合、どのような活動を考えますか。